

【社会福祉法人 東京光の家 総括貸借対照表】
平成26年3月31日現在 (単位：千円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	588,826	流動負債	80,135
現金預金	453,062	未払金	47,601
未収金	106,070	預り金	7,609
立替金	257	経理区分間借入金	17,194
経理区分間貸付金	17,194	会計単位間借入金	7,730
会計単位間貸付金	7,730		
商品・製品	3,086	固定負債	92,817
原材料	1,424	設備資金借入金	19,980
固定資産	2,598,094	退職給与引当金	72,837
基本財産	1,193,988	負債の部合計	172,953
土地	169,058	純資産の部	
建物	1,024,929	基本金	418,832
その他の固定資産	1,404,106	国庫補助金等特別積立金	394,946
機械及び装置	6,088	その他の積立金	1,299,465
車輦運搬具	3,597	人件費積立金	304,500
器具及び備品	19,976	建設積立金	132,000
措置施設繰越特定預金	380,000	施設整備等積立金	703,500
施設整備積立預金	473,500	その他の積立金	152,500
人件費積立預金	154,500	工賃変動積立金	2,465
建設積立特定預金	132,000	設備整備等積立金	4,500
その他の積立特定預金	152,500	次期繰越活動収支差額	900,723
工賃変動積立預金	2,465		900,723
設備整備等積立預金	4,500	(うち当期活動収支差額)	286,929
その他の固定資産	74,979	純資産の部合計	3,013,967
資産の部合計	3,186,921	負債及び純資産の部合計	3,186,921

脚注：減価償却費の累計額 1,160,462千円
注記：固定資産の減価償却の方法…定額法

【社会福祉法人 東京光の家 総括資金収支計算書】
(自) 平成25年4月1日 (至) 平成26年3月31日 (単位：千円)

科目	金額
就労支援事業収入計	63,455
就労支援事業支出計	58,468
就労支援事業活動資金収支差額	4,987
経常活動及び福祉事業収入計	1,322,065
自立支援費等収入	672,757
利用料収入	1,675
措置費収入	200,083
私的契約利用料収入	51,625
補助事業等収入	36
経常経費補助金収入	310,155
寄付金収入	2,636
雑収入	37,821
借入金利息補助金収入	384
受取利息配当金収入	388
会計単位間繰入金収入	31,500
経理区分間繰入金収入	13,000
経常活動及び福祉事業支出計	1,053,423
人件費支出	778,099
事務費支出	82,536
事業費支出	147,902
借入金利息支出	384
経理区分間繰入金支出	13,000
会計単位間繰入金支出	31,500
経常活動福祉事業活動資金収支差額	268,642
施設整備等収入計 (※賛助会寄付金含む)	40,958
施設整備等支出計	13,621
施設整備等資金収支差額	27,336
財務収入計	0
財務支出計	277,990
財務活動資金収支差額	△ 277,990
当期資金収支差額合計	22,976
当期末支払資金残高	504,179

【社会福祉法人 東京光の家 総括事業活動収支計算書】
(自) 平成25年4月1日 (至) 平成26年3月31日 (単位：千円)

科目	金額
就労支援事業活動収入計	63,455
就労支援事業活動支出計	58,996
就労支援事業活動収支差額	4,458
事業活動及び福祉事業活動収入計	1,291,802
自立支援費等収入	672,757
利用料収入	1,675
措置費収入	200,083
私的契約利用料収入	51,625
補助事業等収入	36
経常経費補助金収入	310,155
寄付金収入	2,636
雑収入	30,453
国庫補助金等特別積立金取崩額 (事業)	22,378
事業活動及び福祉事業活動支出計	1,046,650
人件費支出	778,099
事務費支出	66,863
事業費支出	147,902
減価償却費	45,480
引当金繰入	8,304
事業活動及び福祉事業活動収支差額	245,152
事業活動外収入計	46,150
事業活動外支出計	45,761
事業活動外収支差額	388
経常収支差額	250,000
特別収入計 (※賛助会寄付金含む)	41,618
特別支出計	4,689
特別収支差額	36,929
当期活動収支差額	286,929
前期繰越活動収支差額	881,794
当期末繰越活動収支差額	1,168,723
次期繰越活動収支差額	900,723

※賛助会寄付金額 37,018千円

平成二五年度
社会福祉法人 東京光の家 事業報告

はじめに ～総括的報告～

又、事業報告をさせて頂く時期を迎えました。

日頃は私ども東京光の家が行っている視覚障害者福祉事業全般に対し、格別なるご高配のもとご指導ご鞭撻ご支援を賜り心から感謝申し上げます。

皆様の温かいご援助のお陰で、

事業全体も滞り無く取り運ばれ、微力ながらも課されている社会的責任を果たすことが出来ました。各事業体施設に入所する利用者も、地域から通所して来る利用者も、みな元気で明るく、希望を持って諸活動に励みながら自立に向けて頑張っているところです。

以下、平成二五年度の事業状況のご報告をさせていただきます。

【光の家新生園 資金収支計算書】

科 目	金 額
経常収入計	424,676
自立支援費等収入	329,596
経常経費補助金収入	83,965
寄付金収入	283
雑収入	10,746
受取利息配当金収入	84
経常支出計	320,914
人件費支出	248,418
事務費支出	22,320
事業費支出	37,174
経理区分間繰入金支出	13,000
経常活動資金収支差額	103,762
施設整備等収入計	150
施設整備等支出計	420
施設整備等資金収支差額	△ 270
財務収入計	0
財務支出計	100,000
財務活動資金収支差額	△ 100,000
当期資金収支差額合計	3,492
当期末支払資金残高	142,004

【光の家栄光園 資金収支計算書】

科 目	金 額
就労支援事業収入計	47,909
就労支援事業支出計	47,209
就労支援事業活動資金収支差額	700
福祉事業収入計	362,097
自立支援費等収入	305,343
経常経費補助金収入	51,498
寄付金収入	297
雑収入	4,879
受取利息配当金収入	78
福祉事業支出計	255,551
人件費支出	183,425
事務費支出	18,102
事業費支出	42,522
会計単位間繰入金支出	11,500
福祉事業活動資金収支差額	106,545
施設整備等収入計	4,160
施設整備等支出計	5,389
施設整備等資金収支差額	△ 1,229
財務収入計	0
財務支出計	100,000
財務活動資金収支差額	△ 100,000
当期資金収支差額合計	6,016
当期末支払資金残高	169,839

【光の家就労ホーム 資金収支計算書】

科 目	金 額
就労支援事業収入計	15,545
就労支援事業支出計	11,258
就労支援事業活動資金収支差額	4,286
福祉事業収入計	61,527
自立支援費等収入	37,818
経常経費補助金収入	3,315
寄付金収入	92
雑収入	298
受取利息配当金収入	2
会計単位間繰入金収入	20,000
福祉事業支出計	57,076
人件費支出	48,237
事務費支出	4,393
事業費支出	4,445
福祉事業活動資金収支差額	4,450
財務収入計	0
財務支出計	1,500
財務活動資金収支差額	△ 1,500
当期資金収支差額合計	7,237
当期末支払資金残高	19,678

※各資金収支計算書 会計期間：

(自)平成25年4月1日 (至)平成26年3月31日

単位：千円(千円未満切捨)

【法人本部 資金収支計算書】

科 目	金 額
経常収入計	38,108
補助事業等収入	36
寄付金収入	1,641
雑収入	11,836
受取利息配当金収入	95
会計単位間繰入金収入	11,500
経理区分間繰入金収入	13,000
経常支出計	33,503
事務費支出	13,503
会計単位間繰入金支出	20,000
経常活動資金収支差額	4,605
施設整備等収入計	36,648
施設整備等支出計	2,243
施設整備等資金収支差額	34,404
財務収入計	0
財務支出計	35,000
財務活動資金収支差額	△ 35,000
当期資金収支差額合計	4,009
当期末支払資金残高	76,307

【光の家神愛園 資金収支計算書】

科 目	金 額
経常収入計	425,685
措置費収入	200,083
私的契約利用料収入	51,625
経常経費補助金収入	164,602
寄付金収入	321
雑収入	8,546
借入金利息補助金収入	384
受取利息配当金収入	121
経常支出計	378,315
人件費支出	292,287
事務費支出	22,147
事業費支出	63,496
借入金利息支出	384
経常活動資金収支差額	47,369
施設整備等収入計	0
施設整備等支出計	5,567
施設整備等資金収支差額	△ 5,567
財務収入計	0
財務支出計	39,990
財務活動資金収支差額	△ 39,990
当期資金収支差額合計	1,811
当期末支払資金残高	88,075

【光の家鍼灸マッサージホーム 資金収支計算書】

科 目	金 額
経常収入計	9,424
利用料収入	1,675
経常経費補助金収入	6,774
雑収入	970
受取利息配当金収入	4
経常支出計	7,811
人件費支出	5,729
事務費支出	1,818
事業費支出	263
経常活動資金収支差額	1,612
財務収入計	0
財務支出計	1,500
財務活動資金収支差額	△ 1,500
当期資金収支差額合計	112
当期末支払資金残高	5,476

【公益事業特別会計 資金収支計算書】

科 目	金 額
経常収入計	545
雑収入	545
経常支出計	250
事務費支出	250
経常活動資金収支差額	295
当期資金収支差額合計	295
当期末支払資金残高	2,798

法人事業

定款に定める施設事業体は次の五つである。

①光の家新生園（障害者総合支援法による指定障害者支援施設（生活介護定員五四名・機能訓練定員六名・施設入所支援定員五五名・短期入所定員二名）

②光の家栄光園（障害者総合支援法による指定障害者支援施設（生活介護定員七〇名・就労継続支援B型定員一〇名・施設入所支援定員六〇名・短期入所定員二名）

③光の家神愛園（生活保護法による救護施設（定員八〇名）

④光の家就労ホーム（障害者総合支援法による障害者通所就労施設（生活介護定員一〇名・就労継続支援B型定員一〇名）

⑤光の家鍼灸マッサージホーム（障害者総合支援法による盲人ホーム

更に、右五つの施設を統一的・総合的に結ぶ部門として総務部（総務課・医務課・食事課・地域交流センター）がある。又、全施設事業体に亘る横断的な活動を行う組織として一〇数余りの専門委

員会（例・防災活動委員会・安全衛生委員会・苦情解決委員会等々）を設けている。

地域支援事業としては、同行援護従業者の養成事業を実施している福祉教育研修室の他に、地域福祉相談室、盲重複障害者福祉研究室、地域貢献活動室があり、地域福祉サービスの振興・発展に貢献することを目的としている。

なお、各事業施設の活動状況等については、以下の通りである。

指定障害者支援施設

光の家新生園

光の家新生園の利用者は、視覚障害に加え、他の障害を併せ持つ盲重複障害者である。その障害の特性を考慮し、利用者やその家族のニーズに合わせた個別支援計画を策定して自立支援を行った。

一、利用者支援

平成二五年度は、四月に日野市内の七生特別支援学校より一名、群馬県立盲学校より一名、東京都立八王子盲学校より二名、東京都立文京盲学校より一名の合計五名の利用者を迎え、施設入所支援でスタートし、光の家栄光園や光

の家就労ホームの併用利用も積極的に進めた。又、六月には府中市内で生活する視覚障害者一名の機能訓練を受入れた。七月には光の家栄光園に通所している視覚障害者一名の機能訓練を受け入れた。

二、地域との交流

今年度も地域の行事である「たきび祭」に参加した。又、例年同様地域との交流行事（旭が丘ふれあい夏祭り・チャリティーパーザー・愛のサウンドフェスティバル）が行われ、地域の方々との交流が出来た。

三、職員研修の充実

今年度は、新任層の職員を対象に視覚障害やてんかん・自閉症といった障害内容における専門的知識の研修と個別支援計画や基本的な観察方法と言葉の掛け方などの具体的な指導方法の研修を行った。又、外部の研修会での実践報告なども積極的に行なった。

四、保護者との繋がり

保護者会は、四月、八月、一月と年三回実施し、一二月の保護者会では、出席した保護者と六テーブルに別れて「新生園の生活と訓練」というテーマで懇談を行った。初めての試みではあったが、活発な意見交換を行うことが出来た。

指定障害者支援施設

光の家栄光園

光の家栄光園は働くことの尊さと喜びを知るとともに、利用者の自立支援と社会活動への参加を促進することを目標に支援してきた。

一、利用者支援

平成二五年度は入所者六二名、通所者一九名でスタートした。短期入所事業は、繰返し利用の人の定着もあり年間を通して利用率が九〇％を超えた。視覚障害のない人の受入れも行っているが、ほとんどの利用者が視覚に障害を持つ人だった。引き続き「安心と安全と希望」生活には喜びを」という東京光の家の基本方針を実現するために個別支援の充実を図り多様なニーズに適切に対応できるように努めていきたい。

就労支援事業の収入は目標の四一〇〇万円を超え約四三〇〇万円だった。全体的に目標額を上回る事ができた。四月に「障害者優先調達推進法」が施行され、その関係で独立行政法人等から仕事を受注することができたが、今のところ限定的である。今後に期待したい。

二、地域との交流

日野わーく・わーく（日野市授

産事業地域連携システム事業）への積極的な参加や地域貢献活動室による「光の家オープンハウス」、「点字教室」等、さまざまな機会を通して地域の人々と自然なつながりを築くことが出来た。

三、職員研修の充実

平成二五年度は内部研修に力を入れるとともに一六の外部研修に職員を派遣して多くの刺激を受けた。

四、保護者との繋がり

四月、八月、一二月に保護者会を開催した。また、年二回の施設便りの発行と各利用者の状況をミニ通信で保護者にお知らせした。

救護施設

光の家神愛園

光の家神愛園では先天性の視覚障害、人生半ばにして視力を失い、精神面で多くの支援を必要とする中途失明者、視覚障害に加えて、精神障害、アルコール依存症、知的障害等を併せ持つ盲重複障害者等、約八〇名が生活している。平均年齢は約六三歳。六五歳以上の高齢者も多く、殆どの者が、生活の様々な場面で支援を必要としているが、一人ひとりが人生を前向きに、生き甲斐をもって送れるよ

う、個別支援計画を作成し、必要な支援を行ってきた。

一、利用者支援

平成二五年度は四月に法人内の光の家栄光園より一名、七月に医療機関より二名、一月に外部の救護施設より一名の利用者を受け入れた。一方、四名の方が天に召された。昨年度、インフルエンザが大流行した反省から、今年度はこれまで以上に健康管理に力を注いで運動時間の確保に取り組んだ事もあり、インフルエンザに罹患する者は一人もいなかった。

二、地域との交流

光の家神愛園の活動は地域のボランティアの協力を無くしては成り立たない。平成二五年度も数多くの協力を得ることが出来、感謝である。行事を通して地域の皆様と交流を持つことが出来た。

三、職員研修の充実

救護施設関係の研修会を中心に外部の研修会に積極的に職員を派遣するとともに、新人職員を中心に内部研修の充実も図れた。

四、保護者との繋がり

年に二回（八月、一二月）、保護者会を開催し、支援状況等を報告した。施設便りを二回発行し、全保護者に配布した。

障害者通所就労施設

光の家就労ホーム

光の家就労ホームは、地域からの通所利用を基本とし、知的障害を有する方々に対して、働く事の喜びを通し、人格形成と自立心の向上を図れるよう支援した。

一、利用者支援

光の家新生園から六名の併用利用と、地域（在宅、グループホーム等）から一三名の、合計一九名の利用者でスタートした。日中活動の中心は仕事で、「レストラン関係」、「紙漉き作業」、「軽作業」、「清掃関係」などを行った。その他、相談支援、健康管理、食事提供、行事企画、特別活動（運動やレクリエーション）等も行った。

二、地域との交流

一階のレストラン事業を通して、地域の方々や企業関係者、福祉関係者など、幅広い交流が図られ、利用者や施設とのつながりが出来た。

三、職員研修の充実

東社協「知的発達障害部会」に加盟し、外部の研修会に参加した。また、個々の研修参加も啓蒙しつつ、「障害特性」に関する内部研修も実施した。

四、保護者との繋がり

年二回（八月と一二月）の保護者会を開催し、支援内容や活動状況の報告と、意見交換を行なった。また、施設便り（年二回発行）、クリスマスカード送付、日々の連絡帳で、利用状況をお知らせした。

盲人ホーム

光の家鍼灸 マッサージホーム

盲人ホームの目的は「あん摩マッサージ指圧師、鍼師、灸師の免許を有する視覚障害者であつて、自営または雇用されることでの困難な者に対し施設を利用させ、必要な技術の指導を行ない、その自立更生をはかる」となっている。平成二五年度は前年度とかわらず五名の施術師（男性二名、女性三名）が施術業務に従事した。なお、鍼の施術師は、引き続き不在となっている。

施術実績は二九八八件で、施術師の病気療養等もあったため、施術件数・金額共に前年度実績をやや下まわった。

今年度も指導員講師に三療の技術及び接客全般に亘る心得について指導して頂き、施術師の資質の向上に努めた。